海外の話題

香 港 雑 感

農林中央金庫　香港駐在員事務所長　松　尾　　章

香港に来て、あっという間に９ヶ月。とは言え、出張で中国へ３回、観光でマカオへ２回行ったきりで、事務所と自宅の往復が多くてまだまだ香港通とはいかないと自戒しつつ、その間に見たり、聞いたりしたことを少し思い出してみたいと思います。

香港に来てまず驚いたのは、中国人という１民族のくくりのなかで多民族国家みたいなんですね。日本でいうところの東京都のだいたい半分（香港島は小豆島や宮古島ほどもない）のところに多くの民族と生活様式と文化が絡んで共存していると言えましょうか。東洋・西洋、歴史・現代、伝統・最新が詰まっている町だと思います。

一例をあげますと、町を歩いて気がついたことですが宗教ならお寺、寺院、モスク、シナゴーグ、学校なら米国、カナダ、日本、豪州、韓国、英国等のインターナショナルスクール、もちろん世界各国の金融機関などもそうでしょうか。交通機関なら 100 年超の歴史を誇るピークトラム、スターフェリーに対して携帯通話可能な地下鉄（ＭＴＲ）、オールマイティーなＩＣカード「オクトパス」。日本でも昔見られた「ごちゃごちゃ」した駅前商店街みたいな「街市」「熟食」、かたや世界各国の一流ブランド店舗が連なった「ショッピングモール」。ここまで拾い上げると、「そうか！」なんだかアメリカのニューヨークみたいではないかと思ったりもしませんか？香港はアジアのニューヨークかもしれません。しかも「マンハッタン」も島ですよね（ただし、野球はありませんが・・・・）。これはちょっとした発見かもしれません。アメリカが遠いと感じる方なら是非、香港に来てニューヨークみたいな「雰囲気」を味わっていただくのも良いかもしれません。ニューヨークも郊外に出ると大自然があると聞き及んでいますが、香港も中心街からでると大自然がいっぱいです。旧英国という土地柄もありますが、狭いながら公園もいっぱいあります。たぶん行った方なら「なるほど！」と思うでしょうが、事務所のあるセントラル近くに「蘭桂坊（ランカイフォン）」とかその先の「ソーホー」という場所がありますが、そこは東南アジア、中東、中南米、東欧、欧米系のレストランと世界中の料理店がいっぱいあります。まさにここも「東洋・西洋」の交差点といった感じではないでしょうか。

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます

このように、香港には世界の良いところがこの小さな島と半島に揃っていながら、先祖伝来からの習慣とか香港人の主体性をちゃんと持っているんではないかと実感しています。これと関連しますが、やはり香港といえば「食」です。地元民の行くレストラン（香港では、「饗庁」「菜館」「酒楼」「火鍋城」とか言います。）なんかにたまに行きますと、家族連れがやたらと多い。単身の私なんか一人で絶対にいけないです（ついでにお話しすると、日本では常識の「カウンター」席がないんですね)。そのうえ，その家族連れの構成は香港も核家族化が進んでいると言われているなか、２世代よりも３世代とかが目に付きます。何をしゃべっているのか不明ですが、老人が孫の面倒をみているようです。中華料理といえば「丸テーブル」が定番ですが、これがちょうどフィットするんですね。人数調整ができますから。レストランでたまに目にするのがテーブルには大中小とあり、人数に応じてごろごろ転がして替えるんですね。ここに香港人の家族全員での「外食」に対する楽しみとともに香港人らしさ・伝統を見ることができるのではないでしょうか（飲むほうも、専ら「中国茶」でアルコールはめったに見かけません)。

まだまだ奥の深い香港ですが、これからも新たな発見に向けて香港を「体感」してみたいと思います。

 ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます